

大量の埴輪はにわが見つかりました！（四十塚古墳群しじゅうつかこふんぐん・岡部城跡おかべじょうあと第6次調査）

令和3年8月5日（月）～8月30日（月）までの間、四十塚古墳群・岡部城跡の第6次発掘調査を行いました。



調査区全景



埴輪出土状況①（南西より）

当遺跡は、深谷市岡地内に所在し、過去の調査では古墳時代の古墳跡などが確認されています。今回の調査では、古墳時代後期（約1500年前）のものと見られる古墳跡が1基発見されました。古墳の周りに巡る周溝の形状などから、墳丘の直径が約10m程度の小型円墳であったと考えられます。周溝全体を掘り下げた結果、墳丘裾の平坦部分から大量の埴輪が出土しました。いずれも古墳時代に墳丘の周辺に立て並べられた円筒埴輪・朝顔型埴輪（あさがおがたはにわ）※の一部と考えられます。また、鈴などの馬具を形作った形象埴輪も数点出土しており、深谷市周辺地域の古墳に並べられた埴輪の組み合わせを考える上で非常に重要であるといえます。

※朝顔型埴輪・・・上部の口縁部が大きく開いたもの。形が朝顔の花のように見えることからその名前が付けられました。



埴輪出土状況②（北西より）



埴輪出土状況③（西より）